



講評

今回で3回目を迎えました飛鳥資料館の写真コンテストですが、大和三山をテーマとし予想以上に多くの方の210点の応募がありました。多くの皆様にご応募いただいたことに厚く御礼申し上げます。

－写真の構成－

「大和三山」というテーマとしてはごくありふれたものですが、ありふれているだけになかなか難しいものです。普段見慣れた大和三山をいかに画面の中で構成させているのかが写真のポイントです。

入選作品も含めて少し気になったのは、画面を構成するに当たってフレーミングを少し気をつけるだけでさらに良くなる作品がいくつかありました。プリントをする段階で若干のトリミングをすればよいのです。しかし、基本的にはデジタルにしる銀塩にしるトリミングでごまかすのではなく撮影段階で画面を切り取るのが基本です。余計なものがフレームに入っていないか、注意したいところです。

－撮影場所と時間－

これまでの写真コンテストでも言えることですが、定番の撮影場所となると、似た場所での応募者が多くながちです。定番の撮影ポイント/時間ではなく、自分なりに見つけた場所や時間での表現を模索していきたいものです。また、前回までの入選作品とあまりに似通った作品は入賞には選ばれにくいと言えるでしょう。他の応募者の方の作品に目を向けてみるのも大事なことです。

－彩度－

次に毎回言えることですが、彩度が上がりすぎた応募作品が多く見られます。これは撮影段階でカメラの撮影モードが彩度が上がるような設定になっていることや、出力する際にもプリンター側で彩度が上がるような設定になっているのではないかと思います。その結果双方の設定が二重に効き、極端に彩度が上がってしまっている可能性があります。

作品のインパクトを強調させたいのはわかりますが、やり過ぎは禁物です。かえって作品の魅力を損なってしまうかもしれません。これはデジタルカメラでの撮影が多くなってから見受けられます。プリントした作品に今一度冷静に目を向けてみましょう。

－パンフォーカス－

パンフォーカス（ピントが写真の手前から奥まで全てにあっていう状態）がダメというわけではありませんが、レンズのボケ味をもう少し利用してはどうでしょうか。ボケを利用することで、立体感や遠近感が表現できます。作品の多くにパンフォーカス状態のものが見受けられます。絞りすぎず、適切な絞り値で撮影することも大切です。しかし、一部の高級コンパクトカメラを除き普通のコンパクトカメラでは構造上ほとんどがパンフォーカスになってしまうことも注意してください。このように、カメラの特性や機能をうまく理解することも大事なポイントではないかと思えます。